

特集

カテテル アブレーション入門



編集責任

東京心臓不整脈病院

野上昭彦 *NOGAMI, Akihiko*

今回の特集は、不整脈の非薬物治療における重要なテーマ、すなわちカテテルアブレーション時の3Dマッピングに焦点を当てたものである。不整脈の治療において、3Dマッピングは革命的な進歩を遂げ、この分野の業務に大きな変革をもたらした。

不整脈治療の分野において、臨床工学技士と医師の連携はきわめて重要である。医師は診断と治療を行うが、そのために必要な最適で正確なデータを提供するのは臨床工学技士の役割である。カテテルアブレーションにおいては、3Dマッピングが治療の成功に不可欠な要素となっているが、それらの機器は急速に進歩しており、新たな機種や機能が次々に登場している。これに追いつくためには、医師や臨床工学技士が常に最新の情報を収集し、技術の変化に適応する必要がある。

私たち不整脈治療チームの目標は、臨床工学技士と医師の連携を強化し、最高の結果をもたらすことである。そのためには、すべてのスタッフが最新の技術に精通し、相互の円滑なコミュニケーションを築くことが欠かせない。

医師が研究会や学会などで新しいマッピング手法を学び、それを実際の治療に適用しようとする際、臨床工学技士のサポートが必要不可欠

である。もし臨床工学技士がそれらの技術の詳細を把握していない場合、新たなマッピング手法を効果的に実施することは困難となる。マッピングのノウハウには、表面的な理解だけでは不十分な、コツのような要素が数多く含まれているからである。

一方、臨床工学技士向けの研修会も多く開催されているが、そこで得た知識を医師側に伝え、すぐに実践に移すことも容易ではない。私たちが目指すべき姿は、お互いに学び合い、協力し、患者に最適な不整脈治療を提供することである。

この特集記事では、3Dマッピングの基本から応用まで、幅広い情報を提供する。また、臨床工学技士と医師の協力を促進し、最高の治療結果を実現するためのヒントやコツも共有したいと思う。

臨床工学技士と医師、そして患者との協力が不整脈治療の未来を切り開く鍵となる。本特集が、皆様の専門知識とスキル向上に貢献し、チームとしての力を高める一助となれば幸いです。

最後に、本書の執筆者や編集スタッフに感謝の意を表します。本特集をお楽しみいただければ幸いです。